

contents

ピカソ、マティスと20世紀の画家たち -フォーヴィスムとキュビスム-	[2~3]
新収蔵作品紹介	[4~6]
平成16年度事業案内	[7]
お知らせ(異動・開館日拡大について)	[8]
貸館情報	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙:狩野 興以「韃靼人狩獵図屏風」(右隻部分)〉



ピカソ、 マティスと 20世紀の画家たち

フォーヴィスムとキュビスム

2004年
4月16日(金)～5月16日(日)

主催: 福井県立美術館、福井新聞社
 後援: フランス大使館、福井市、福井市教育委員会、福井県文化協議会、
 NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井
 協力: エール・フランス

Fauvisme
et Cubisme

会場/福井県立美術館 福井県福井市文京3-16-1 TEL 0776(25)0452
 開館時間/午前9時～午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
 夜間開館/毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
 休館日/4月26日(月)・5月10日(月)
 観覧料/一般 1,000円(前売り800円 ※一般のみ)・大高生 700円・中小生 500円(30名以上の団体は2割引)

講演会

「ピカソが封印したキュビスムの謎」

4月29日(木・みどりの日)

講師: 北川 健次(美術家・作家)
 午後2時～ 於: 当館講堂

聴講
無料

4月25日(日)・5月2日(日)～5日(水)・
 8日(日)・16日(日)

午後2時～ 於: 展示会場
 ※ 展示会チケットが必要です

《所蔵品によるテーマ展》
**「新収蔵作品紹介/
 古への憧憬 -日本の古美術-」**

※ 本展チケットにてご覧いただけます

20世紀美術はかつてないほどの幅広く多様な展開を見せ、多くの新しい美術運動が勃興しましたが、その基本的な方向は、絵画を現実のモチーフから独立させ、造形としての絵画の自律性や純粋性を確立することでした。そして20世紀前半のフランスで、近代美術をリードし、新しい造形を作り出していったのがアンリ・マティスとパブロ・ピカソです。

アンリ・マティスの画家としての活動を一言で表せば、絵画における色彩と形態の解放といえるでしょう。特に20世紀初頭には、本展にも出品されているアルペール・マルケやモーリス・ド・ヴラマンク、ジャン・ピュイなどの画家たちと造形思想を共有し、対象の持つ固有有色を否定し、色彩による画面構成を主張、鮮やかな色彩と大胆な筆致を特徴とする作品群を残しました。この活動はフォーヴィスムと呼ばれました。

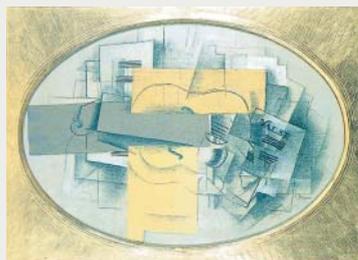


[左] フェルナン・レジェ
 「双子」 1929 - 30年
 ルートヴィヒ美術館 ケルン蔵

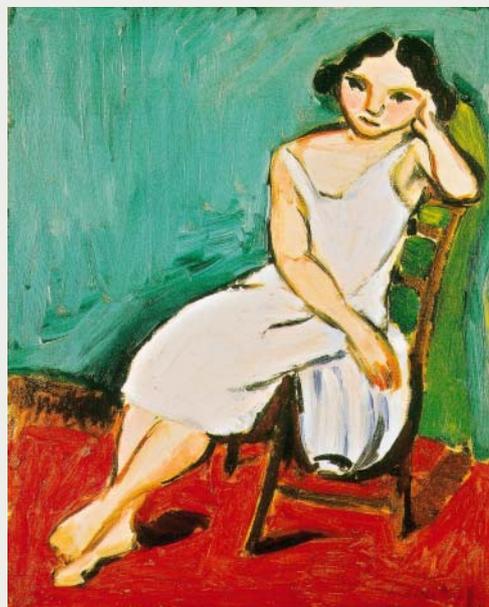


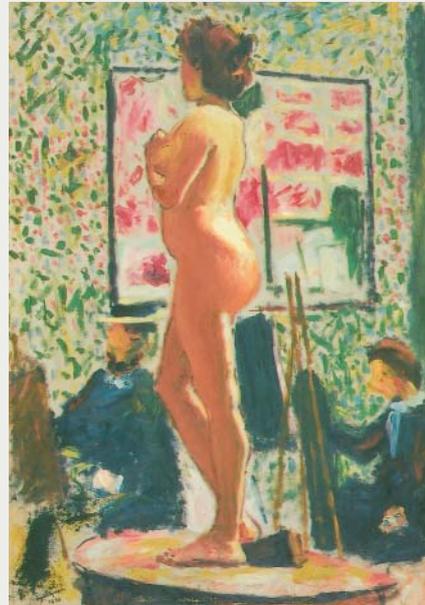
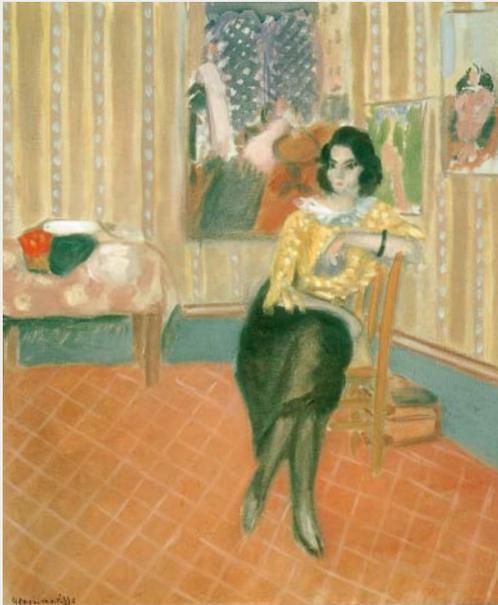
[中上] モーリス・ド・ヴラマンク
 「プロカ病院」 1917年
 ボルドー美術館蔵

[中下] ジョルジュ・ブラック
 「コップとヴァイオリンと楽譜」 1912年
 ルートヴィヒ美術館 ケルン蔵



[右] アンリ・マティス
 「腰掛ける少女」 1909年頃
 ルートヴィヒ美術館 ケルン蔵





- [左] アンリ・マティス
「腰掛ける若い女」 1921年頃
ナンシー美術館蔵
- [中] アルベール・マルケ
「裸婦(通称フォーヴ風裸婦)」 1899年
ホルドー美術館蔵
- [右] アルベール・マルケ
「ホルドーの港」 1924年
ホルドー美術館蔵

生涯にわたり激しい様式の変貌を繰り返したピカソの活動は、20世紀初頭にジョルジュ・ブラックとともに創出したキュビズムによって、真に独創性を発揮し始めます。彼らはキュビズムの作品で、ルネサンス以来の遠近法を中心とした絵画秩序を完全に破壊し、真に独創的な絵画秩序を作り上げたのです。彼らの創出したキュビズムは、20世紀前半で最も影響力の強い運動となり、本展にも作品が展覧されている多くのキュビストと呼ばれる同調者を生みました。運動としてのキュビズムは第1次世界大戦によって終焉しますが、その後も美術・デザインに大きな影響を残すこととなります。またピカソはその後の創作活動を通して、20世紀美術最大の巨人としての地位を確立することとなります。

本展では、マティスとピカソの各時代の作品と、フォーヴィズムとキュビズムに参加した画家たちの作品総数約100点によって、20世紀前半の美術運動の一端を紹介したいと思います。

(主任学芸員 芹川貞夫)

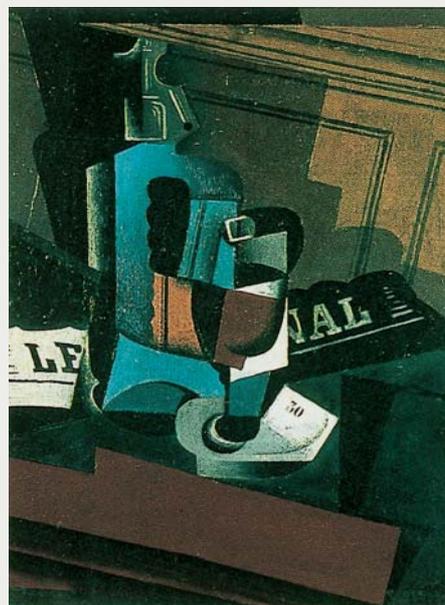
【出品作家】(全21作家)

《フォーヴィズム》

アンリ・マティス、アルベール・マルケ、
ルイ・ヴァルタ、モーリス・ド・ヴラマンク、
ジャン・ピュイ、ラウル・デュフィ、
オーギュスト・シャボール

《キュビズム》

パブロ・ピカソ、ジョルジュ・ブラック、
フェルナン・レジェ、ホアン・グリス、
アンドレ・ロート、アレキサンドル・ボゴモゾフ、
アレクサンドル・クプリン、
マックス・ウェーバー、
アリストアージュ・レンツツロフ、
ウラティミール・バラノフ=ロシネー、
コンラッド・クレーマー、
リュエボフ・ポポーヴァ、アリス・アルカ、
ゾルダン・セペシュ



- [左] パブロ・ピカソ
「葡萄の帽子の女」 1913年
ボラ美術館蔵
- [右] ホアン・グリス
「サイフォン、グラスと新聞」 1916年
ルートヴィヒ美術館 ケルン蔵

平成15年度新収蔵作品紹介

福井県立美術館では、

- ①岡倉天心とその周辺の作家及び作品
- ②福井にゆかりのある作品
- ③国の内外、時代を問わず優れた作品

の三つの基本方針に従って作品を収集しており、平成15年度もこの方針の下、ふくいゆかりの作品・作家からは狩野興以、小野忠弘、国内外を問わず優れた作品からは牧進、岡義実、秀島踏波の合計61点の作品を収集しました。(購入7点、寄贈54点)

日本画

狩野 興以

Kouji Kanou

だったんじん

「韃靼人狩獵図屏風」

制作年：江戸時代(17世紀)
技法：紙本着色
法量：〔各〕150.8×348.0cm
形態：屏風装(六曲一双)
収集区分：購入

「韃靼人狩獵図」とは中国北方のモンゴル系部族・韃靼人の狩獵の様子を描いたもので、室町時代以降、狩野派などの画人により好んで描かれた画題です。この屏風は彼らの狩獵と打毬(ポロのようなゲーム)の様子を左右の各隻に描き分けた作品で、作者は桃山から江戸時代初めにかけて活躍した狩野派の絵師狩野興以(?~1636)です。興以は狩野永徳の子光信に学び、さらには狩野探幽兄弟の後見役ともなってその指導にあたったといわれ、狩野派画人の中でも重要な位置づけをされています。本図はもと福井藩主松平家に伝来した作品で、広大な山水景観の中に、多くの人物が生き生きと躍動感あふれる表現で描かれています。本図は印章から興以晩年の作と知られ、数少ない著色の大作の一つとして貴重といえます。



〈右隻〉



〈左隻〉



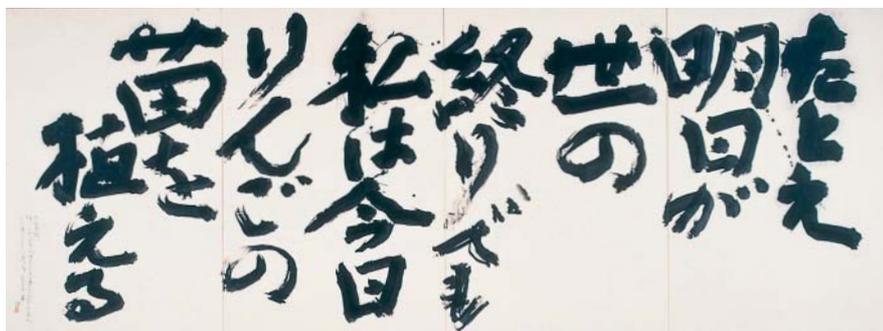
牧 進

Susumu Maki

「花のころ」

制作年 : 平成14年(2002)
 技法 : 紙本着色
 法量 : 145.5×112.1cm
 形態 : 額装
 収集区分 : 寄贈

牧進は川端龍子に師事し青龍展を中心に活動しましたが、龍子の没後は無所属画家として個展を中心とした制作活動を続けています。牧の作品は、古今東西の様々な絵画の影響を受け、様々な要素を持っていますが、特に彼の作品を特徴付けるものはその精緻な描写力と抽象志向といえます。青竹の林を平面的に文様化した背景の上に桜の花を描き、清楚でやや寂しげな雰囲気を持った本作は、このような彼の作品の特徴を十分に表した作品と言えます。



①「たとえ明日が世の終りでも…」

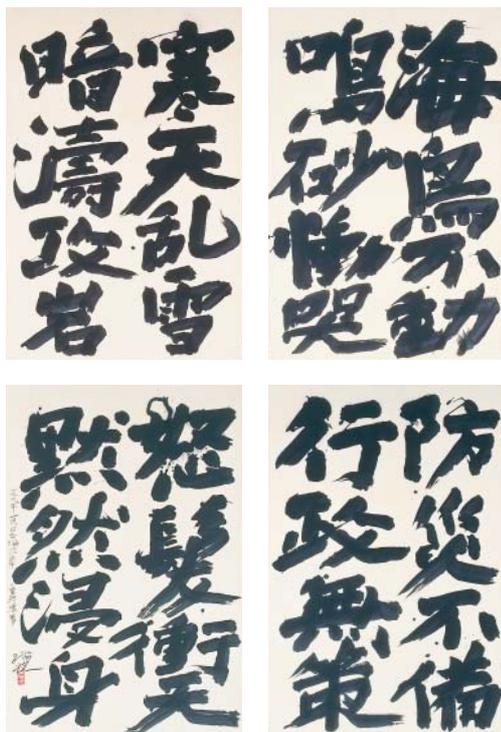
秀島 踏波

Touha Hidesima

①「たとえ明日が世の終りでも…」
 制作年 : 平成7年(1995)
 技法 : 紙本墨書
 法量 : 180.0×480.0cm
 形態 : パネル
 収集区分 : 寄贈

②「日本海沿岸重油漂着」
 制作年 : 平成9年(1997)
 技法 : 紙本墨書
 法量 : [各]180.0×120.0cm
 形態 : パネル(4枚組)
 収集区分 : 寄贈

秀島踏波は漢字とかなが入り交じった近代詩文書表現を中心に、現在は無所属の個展作家として活動する書家です。「たとえ明日が世の終りでも…」は平成7年に阪神大震災を体験し、圧倒的な自然の破壊力の前で人間存在のあまりのはかなさに絶望、その中でマルチン・ルター原作とされる詩に出会い、生きることへの勇気と希望を込めた作品。「日本海重油漂着」は平成9年のロシア船籍タンカーの重油流出事故による海洋汚染、住民総出で岩礁や砂浜に漂着した重油を懸命に除去する自然災害の現場を、能登路へのドライブの帰途に実見し、その時の激しい怒りを自作した詩です。ともにその年の個展で発表、大きな共感と感動を呼んだ作品です。



②「日本海沿岸重油漂着」

書

洋画

小野 忠弘

Tadahiro Ono

(購入6点, 寄贈50点)

① 無題 (BULE)

制作年:不詳(1994年頃)
技法:混合技法
法量:120.0×240.0
形態:額装
収集区分:購入

② BULE

制作年:1997~8年頃
技法:混合技法
法量:120.2×240.2
形態:額装
収集区分:購入

③ 無題

制作年:不詳(1999年頃)
技法:混合技法
法量:90.0×180.0cm
形態:未装
収集区分:購入

1913年青森に生まれ42年に福井の住人となった小野忠弘は、2001年に88歳で他界するまで、約70年間にも及び制作活動を繰り広げ、その独特の造形意識は、サンパウロやヴェニス・ビエンナーレなどの国際的な舞台において高い評価を受けました。

85年には当館においてそれまでの画業を回顧する「小野忠弘展」が開催され、80年代後半からは、毎年のように開催された個展において次々と新作を発表しました。

小野は80歳を超えてからも「BLUE」や「Silver」といったシリーズを精力的に制作し続けましたが、彼はこれらの作品群によって、全く独自の世界を確立したといえるでしょう。

岡 義実

Yoshimitu Oka

「秋のノルマンディー」

制作年:平成4年(1992)
技法:キャンバス、油彩
法量:120.0×360.0cm
形態:額装
収集区分:寄贈

岡義実は、1969年に渡仏以来フランスの風景を描きつづけている画家です。レンブラント、ブラック、マルケなどの影響を受け自らの画風を模索してきましたが、最も影響を受けたのは印象派です。これら歴史上の作品を通して自然を見、印象派以降の近・現代美術の中で見落とされた自然の要素を再度見なおしています。本作は、独特の緩いブラシストロークで秋のノルマンディー海岸を描いており、現場の雰囲気がよく表れた大作です。彼の作品の特徴を十分に表した作品と言えるでしょう。



① 無題 (BULE)



② BULE



③ 無題



平成16年度事業案内

平成16年度の企画展、所蔵品によるテーマ展、移動美術館は下記の通りです。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

企画展

● 4月16日(金)～5月16日(日)

ピカソ、マティスと20世紀の画家たち —フォーヴィスムとキュビスム—

マティスに代表されるフォーヴィスムの画家たちは、20世紀初頭において色彩の革命を起こしました。また同時期にピカソに代表されるキュビスムの画家たちは空間表現に革命を起こしました。本展では、フランス・ボルドー美術館を始め国内外の美術館の協力を得て、20世紀美術の方向付けをした2大運動の作品を紹介しその活動を探ります。



アルベール・マルケ
「フォーヴのモード」

● 6月11日(金)～7月11日(日)

マン・レイ展

マン・レイ(1890～1976)はダダイスムやシュルレアリスム、また、絵画から、オブジェ、写真、ファッション写真、映画まで、驚くほど幅広い分野やメディアで活躍したアーティストです。その多彩な活動は、今日の美術の先駆者として再評価が高まっています。これまで写真家として紹介されることの多かった、マン・レイの全体像に迫る展覧会です。



マン・レイ「不滅のオブジェ」

移動美術館

【小浜展1】 6月23日(水)～7月4日(日)

福井県立若狭歴史民俗資料館

【敦賀展】 8月18日(水)～31日(火)

敦賀市立博物館

● 10月8日(金)～11月7日(日)

北斎展(仮称)

葛飾北斎は江戸後期に活躍した浮世絵師です。「富嶽三十六景」に代表される彼の活動は、日本のみならず世界的にも高い評価を受けています。本展覧会は島根県津和野市にある葛飾北斎美術館のコレクションから、肉筆画・版画・版本など約200点を展示、浮世絵に独自の世界を拓いた天才絵師・北斎の画業を紹介します。



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」

移動美術館

【小浜展2】 3月10日(木)～21日(月)

福井県立若狭歴史民俗資料館

所蔵品によるテーマ展

● 4月4日(日)～5月24日(月)

新収蔵作品紹介

狩野興以「韃靼人狩獵図屏風」

小野忠弘「BLUE」 ほか

古への憧憬—日本の古美術—

岩佐又兵衛「和漢風俗図押絵貼屏風」

歌川広重「越前湯之尾峠」 ほか

狩野興以
「韃靼人狩獵図屏風」
(部分)



● 5月29日(土)～7月12日(月)

モノクロームの世界



森山大道「につぼん劇場Ⅰ」
北川健次「楕円形の肖像」
麻田 浩「黒い風景」 ほか

北川健次
「楕円形の肖像」



歌川広重「越前湯之尾峠」

● 7月25日(日)～8月30日(月)

ようこそアート動物園へ

加山又造「人と駱駝」

久里洋二「人間動物園」

戸田正寿「SOFT BIBLE」 ほか



加山 又造
「人と駱駝」

● 9月4日(土)～10月3日(日)

福井現代美術コトハジメ

木下秀一郎「土岡氏の夜像」

堀田清治「雨の宿泊所」

北川民次「男の顔」 ほか



木下秀一郎「土岡氏の夜像」

● 10月8日(金)～11月8日(月)

ピカソ、ミロ、ドーミエ

—ヨーロッパの版画—

オレド・ドーミエ「ロベール・マケール物語」

パブロ・ピカソ「画家とモデル」 ほか

ホアン・ミロ「二人の友達」 ほか



ホアン・ミロ「二人の友達」

● 12月5日(日)～1月10日(月)

命つきるまで

—三上誠とパンリアル—

三上 誠「F市曼荼羅」 「輪廻の詩」

星野真吾「喪中の作品・赤い別離」 ほか



三上 誠「F市曼荼羅」

● 12月28日(日)～1月10日(月)

迎春企画—酉・鳥・とり—

岩佐勝重「群鶴図屏風」

下村良之介「青鷺の森シリーズ—翼—」 ほか



岩佐勝重「群鶴図屏風」(左隻)

● 1月16日(日)～2月21日(月)

季節の表情／岡島コレクション

川端龍子「花下行人」

米谷清和「夏」

原 雅幸「樹間の雪景」

後藤祐葉「獅子図三所物」 ほか



米谷清和「夏」

● 2月26日(土)～3月31日(木)

新しい日本画をめざして

—日本美術院の作家たち—

／岡島コレクション

菱田春草「落葉」

横山大観「老君出関」

安田靫彦「天之八衢」 ほか



安田靫彦「天之八衢」

お知らせ

美術館職員の異動

当館では4月に定期人事異動がありました。平成3年5月より13年間在任した村瀬雅夫館長と準備室時代から学芸員として28年間在任した八百山登副館長(学芸)が退職しました。新館長には、初の常勤の館長として佐々木緑副館長が就任しました。新しい体制になりましたが、より一層充実した美術館を目指していきたいと思っております。多くの皆様のご来館を職員一同お待ちしております。

開館日の拡大

今年度より美術館の休館日が変更になります。これまで毎週月曜日と年末年始が定休日でしたが、今年度より年末年始(12/29～1/2)を除いて、展示替えや燻蒸、施設点検などのために当館が指定する日が休館日となり、月曜日も開館になります。休館日が変則的になりますので、平成16年度展覧会案内や各企画展のちらしなどで休館日をご確認のうえご来館下さい。

美術館のFAX番号が変わりましたのでご注意ください

しばらくご迷惑をおかけしますが、順次広報物等への掲載も変えていきますのでご了承下さい。

新番号:**0776(25)0459** (FAX)
0776(25)0452 (一般受付・利用サービス室)
0776(25)0451 (学芸直通)

貸館情報

4/22～ 4/25	春のひだまり	5/21～ 5/23	● 愛石展	6/ 9～ 6/13	● 第15回 武蔵野美術大学 校友会福井県支部展
4/27～ 5/ 3	写真展「森に棲むブナ樹」	5/26～ 5/30	● 村上開美 「天使ちゃんと私」展	6/17～ 6/20	● プレアデス会洋画展
5/ 5～ 5/ 9	● パレット・JIN絵画展	5/27～ 5/29	● 第19回 シルバー福井展	6/23～ 6/27	● 福井県写真作家連盟展
5/13～ 5/16	● 第32回 書法研究 石門展	6/ 3～ 6/ 6	● 第54回 県書道展・ 県現代書作家展		
5/21～ 5/23	● 第13回 紫陽花展				
5/21～ 5/23	● 水の星に生まれて				

広報板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

志村ふくみの紬織り

4月10日(土)～5月23日(日)



志村ふくみ「萌黄格子」

紬織りで人間国宝の認定を受ける染織家志村ふくみの故郷での10年ぶりの企画展。昨年末に寄贈を受けた60点に最新作の「源氏物語シリーズ」などを加えた約100点の志村芸術を紹介。

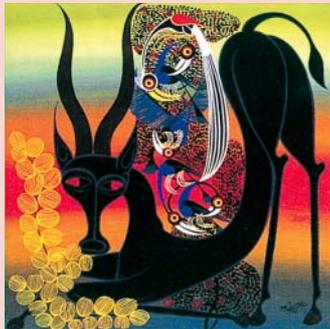
一般900円(700円)／高大学生650円(500円)／小中学生450円(350円)
 ※括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

アボリジニと ティンガティンガの世界

4月13日(火)～5月16日(日)



ジャファアリー・アウン「ガゼルと鳥たち」1992年

洗練された装飾性を示すオーストラリア先住民アボリジニの美術と、アフリカ・タンザニアの動物などを描いたティンガティンガ派絵画の二つの非西洋的な大地の美術の世界を紹介。

一般700円(600円)／高大学生500円(400円)／小中学生300円(200円)
 ※括弧内は、20名以上の団体料金

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

上村松園展

4月14日(水)～5月23日(日)



上村松園「序の舞」昭和11年 東京芸術大学大学美術館蔵

女性美の極致を追求し近代日本画の世界で最も名の知られた女性画家である上村松園。リニューアル開館を記念して代表作80点と大下絵を通じて不世出の女性画家松園に迫る。

一般1,000円(800円)／高大学生800円(600円)／小中学生500円(400円)
 ※括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金